

産業経済常任委員会

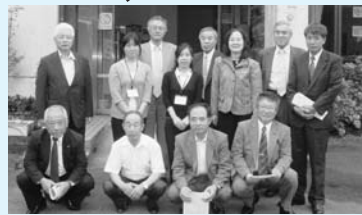
視察日：平成21年7月21日～23日

視察先：新潟県新潟市、長野県飯山市、新潟県上越市内の櫛池地区農業振興会

【新潟市】：日本海・田園都市型グリーン&ブルーツーリズムについて

大きな市街地と広大で平坦な田園が近接する特性を活かし、農業・農村の魅力を体験できる内容で、首都圏や県外の団塊世代や若年層を中心に交流・定住人口の拡大を図るものでした。

【飯山市】：ふるさと回帰事業、グリーンツーリズム、森林セラピー推進事業について



ふるさと回帰事業はふるさと回帰支援センターを設立、「いいやま住んでみせん課」を新設し、移住定住促進を推進しており、グリーンツーリズムは標高差1000mの自然・農林業体験をテーマに3つのエリアに分かれ、参加者がメニューを選択できます。森林セラピー推進事業は健康への旅、健康食の充実を図り、アンチエイジングスイーツの開発や医療機関等との連携を行っています。

【櫛池地区農業振興会】：平成20年度農林水産祭天皇杯受賞のむらづくり活動について

11集落と担い手や組織が中山間地域等直接支払制度の協定の一元化を契機に地区の課題に対応するため設立、耕作放棄地の拡大防止対策に組織的継続的な農業生産体制の構築を基礎に、地区の生産振興、都市交流など活性化を目指した活動を進めていました。

建設環境常任委員会

視察日：平成21年7月21日～23日

視察先：新潟県柏崎市、長野県長野市、長野県佐久市

【柏崎市】：震災からの復興状況と震災後のまちづくりについて

震災後に駅前建設した公営住宅が、高齢者の利便性と、駅前に人を集めることで賑わいをもった中心市街地の形成をはかることを目的としており、被災者の支援を第1に考えると同時に、さらにその先を考えて再建に取り組んでいることに感銘を受けてきました。

【長野市】：ごみ減量化に向けた取り組みについて

特にも「ダンボール箱を利用した生ごみ処理の方法」について注目して視察をしてまいりました。生ごみだけは自分でリサイクルできる唯一のものという考えのもと、ごみ減量のカギは生ごみの減量であるとの考えから、ダンボール箱堆肥講座の開催や電話相談窓口の設置、各家庭への訪問指導、その堆肥を使ったガーデニング講座の開催など、ダンボール箱堆肥の普及に力を入れていました。

今まで捨てていたものを資源として活用することと、ごみや環境に対する意識の高揚が図られるこの方法は、当市においても参考にできる取り組みでありました。

【佐久市】：地震体験装置について

地震のしくみを学習しながら、過去の地震を体験できる装置でしたが、当市の将来を担う子ども達に、当市でおきた地震をどのように伝えていくかは大きな課題であり、この体験システムのようなもので伝えるのも1つの手段だと感じたところでした。



議会広報編集委員会

視察日：平成21年7月29日～31日

視察先：埼玉県所沢市、埼玉県深谷市、群馬県渋川市

【視察項目】 議会だよりの編集方針と作業工程について

【所沢市】：編集は、表紙の見出しを話題のフレーズから決定し、一般質問は「である調」に統一、内容は1項目で部門毎に掲載され、見やすい紙面でしたがページ数が少ないため、レイアウトに苦慮しているとのことでした。編集方針は、議会活動の経過と結果を市民に伝えることを目的に、質問議員の顔写真等は省き、議会全体の会報となるように編集されておりました。



【深谷市】：編集は、一般質問を「である調」に統一し、質問原稿は議員が作成、公平性の観点から答弁原稿は担当部と議員で調整を行い、議会全体の内容を市民に伝えることが主眼であるため、質問議員の顔写真は掲載していませんでした。編集方針は、1年間の表紙写真のテーマを決定し、原稿の校正は、編集委員と職員に印刷業者が加わり、アドバイスを受け編集されておりました。

【渋川市】：編集は、一般質問の見出しは自由とし、質問議員の顔写真は掲載せず、質問原稿は議員が作成、答弁原稿は担当部が作成し、市民に分りやすいよう用語解説を入れておりました。編集方針は、自ら企画、割付、編集、校正等を行い、真の手づくりとして、市民に知ってほしい内容を重点に作成されておりました。